

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	和歌山大学
設置者名	国立大学法人和歌山大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信	13	0	0	13	13	
経済学部	経済学科	夜・通信		0	0	13	13	
システム工学部	システム工学科	夜・通信		0	0	13	13	
観光学部	観光学科	夜・通信		0	0	13	13	
社会インフォマティクス学環		夜・通信		0	0	13	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

○大学のホームページ：「シラバスについて／実務経験のある教員等による授業科目について」において公表 <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html</a>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名 ー
(困難である理由)

## 様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	和歌山大学
設置者名	国立大学法人和歌山大学

### 1. 理事（役員）名簿の公表方法

○大学のホームページ：「役職職員一覧」において公表  
[https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/public\\_org/executive.html](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/public_org/executive.html)

### 2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課長	2026.4.1- 2027.3.31	ガバナンス強化、財務、 施設担当（兼副学長）
常勤	有限会社明日香コンピュータ	2025.4.1- 2027.3.31	産学連携（研究）担当
非常勤	株式会社 NANKAI 沿線づくり 戦略本部沿線づくり戦略部部長	2026.4.1- 2027.3.31	産学連携（教育）担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	和歌山大学
設置者名	国立大学法人和歌山大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>和歌山大学成績評価方針において、授業の目的、到達目標、授業計画及び成績評価の方法・基準のシラバスへの明記など、教員による授業評価の基本方針を定めている。次年度の授業時間が決定した1月から2月に授業担当教員がシラバスを作成、2月から3月に各部局において内容を確認のうえ、3月下旬から4月にホームページで公表している。</p> <p>学生には、履修手引等により3月下旬から4月のガイダンス等において周知・指導している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>○大学のホームページ:「シラバスについて/実務経験のある教員等による授業科目について」において公表  <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>和歌山大学成績評価方針に基づき、授業時間外に行う事前・事後学修についても、シラバスに記載された到達目標の達成度に応じて精緻な評価を行うことを定め、これを実施している。</p> <p>また、各授業科目における成績評価の結果を検証し、次回以降の授業改善に活用することとしている。</p> <p>さらに、成績評価に対する異議申立制度を設け、学修成績に関する疑義に対応するとともに、評価に用いた答案等の保管についても明確に定め、適切に運用している。</p> <p>○大学のホームページ:「和歌山大学成績評価方針」  <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/authorization5.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/authorization5.html</a></p> <p>○大学のホームページ:「和歌山大学成績評価及び単位修得並びにGPA制度に関する規程」  <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/GPA_CAP.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/GPA_CAP.html</a></p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<p>和歌山大学成績評価及び単位修得並びにGPA制度に関する規程を定め、大学のホームページで公表している。また、戦略情報室が作成した成績評価分布のデータに基づき、各学部や担当理事等が分析・検証を行い、さらに教授会等を通じてその結果を授業担当教員にフィードバックし、授業改善に努めている。</p> <p>○GPAの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GP = (素点-55) ÷ 10  ※GP値が0.5未満の場合(素点が59点以下)はGP値を0.0とする。</li> <li>・学期GPA  = 当該学期に履修登録した各科目の(GP×単位数)の合計÷当該学期の成績評価を受けた全科目の単位数合計  ※GPAは小数点以下第3位を四捨五入し、第2位までを表示する。</li> <li>・通算GPA  = 入学時から履修登録した各科目の(GP×単位数)の合計÷入学時から成績評価を受けた全科目の単位数合計  ※GPAは小数第3位を四捨五入し、第2位までを表示する。  ※不合格科目を再履修して成績評価を受けた場合、再履修前の不合格評価は通算GPAに算入しない。</li> </ul>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	○大学のホームページ:「成績評価・GPA制度・CAP制について」 において公表 <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/GPA_CAP.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/GPA_CAP.html</a>
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
<p>全学及び各部局においてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定め、大学のホームページで公表するとともに、これらに基づいて授業科目を適切に開設し、シラバスに各授業科目とディプロマ・ポリシーの関係を明記している。</p> <p>また、卒業の認定にあたっては、学則及び学部規則に基づき、教授会において必要な学修を修めたことを認定している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	○大学のホームページ:「教育情報の公表   和歌山大学ディプロマ・ポリシー」において公表 <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	和歌山大学
設置者名	国立大学法人和歌山大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html</a>
財産目録	—
事業報告書	<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/fin/financial.html</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: 国立大学法人和歌山大学第四期中期計画 対象年度: 令和4年度~令和9年度 )	
公表方法: <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/business/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/business/</a>	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public/con.html</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的                  (公表方法：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>)</p>
<p>(概要)  <b>【和歌山大学目的及び使命】</b>                  国立大学法人和歌山大学が設置する和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを使命とする。</p> <p><b>【教育学部目的及び使命】</b>                  人間と教育に関する深い理解と、科学・芸術・文化に関する専門的知識にもとづき、教育実践力を高めることで、次代を担う子どもたちの成長と発達を支援していくことのできる高度な資質・能力をもった教員の養成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針                  (公表方法：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>)</p>
<p>(概要)  <b>【和歌山大学ディプロマ・ポリシー】</b>                  和歌山大学卒業時に身につけているべき能力を、5つの要素で構成したディプロマ・ポリシーにより、次のように定める。5つの要素の比重や具体は各学部・学環で異なるが、卒業する全ての学生がこの5つの要素に関わる能力を身につけている必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と分野横断的な学力                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・教養教育により、普遍的な思考力と、時代や社会が求める実践的な力を身につけている。</li> <li>・専門分野の枠を超えて求められる知識や思考法などの知的な技法の基礎を身につけている。</li> </ul> </li> <li>専門的知識や技能                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野における十分な見識を身につけることにより、専門職業人としての知識・技能を備えている。</li> </ul> </li> <li>課題解決力と自己学修能力                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・修得した知識・技能を活用して課題を解決し、主体的に学び続ける能力、意欲と態度を備えている。</li> </ul> </li> <li>協働性とコミュニケーション能力                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働して物事に取り組み理解する能力、意欲と態度を備えている。</li> </ul> </li> <li>地域への関心と国際的視点                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性を理解し、地域の課題解決に寄与する意欲や態度を備えている。</li> <li>・異文化理解力、コミュニケーション力を身につけ、国際的視野を備えている。</li> </ul> </li> </ol> <p><b>【教育学部ディプロマ・ポリシー】</b>                  和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、教育学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、「地域とともに学びの未来を拓く教師」として次の目標に到達していると認められる者に学士（教育学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と分野横断的な学力                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・学術文化の基盤となる幅広い学術的教養を身につけている。</li> <li>・論理的に考える力や情報化社会に対応する実践的な力を身につけている。</li> </ul> </li> <li>専門的知識や技能                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育において教育活動を行うための基盤となる専門的知識や技能を身につけている。</li> <li>・幼児期から青年期に至る子どもの発達を見通し、個々の多様な教育的ニーズを理解し支援できる。</li> </ul> </li> <li>課題解決力と自己学修能力                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに関わる専門職として、生涯にわたって学び続ける基盤を有している。</li> </ul> </li> <li>協働性とコミュニケーション能力                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的人権を擁護し、他者と関わりながら教育活動を行うための基盤を有している。</li> </ul> </li> <li>地域への関心と国際的視点                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性を理解するための基盤となる知識や技能を身につけている。</li> </ul> </li> </ol>

・国際理解・異文化理解の能力を身につけている。

#### 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 : [https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/))

##### (概要)

#### 【和歌山大学カリキュラム・ポリシー】

##### (1) 教育課程編成の視点と内容

1. 本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を育成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と各学部の専門分野を体系的に学ぶ教育課程を設置する。
2. 学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。
3. 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進すると共に、それらに充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限（キャップ制）を設ける。
4. 授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析にもとづき、個々の授業科目の教育効果や、学生の学修到達目標の達成状況について検証し、教育課程の改善につなげる。

##### (2) 教育課程展開の授業形態・方法

1. PBL やグループワークなどアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行うことで、社会人や職業人として必要なコミュニケーション力や協働する力、課題解決力などを身に付ける機会を設定する。
2. 様々な授業形態（講義、演習、実験、実習、実技など）を利用しながら、対面や遠隔、オンデマンドを適切に組み合わせた授業を行うと共に、学習管理システム（LMS）の利用を促進することで学習効果を高める。
3. 学生の履修を支援し、自己学修能力を育成するために学修ポートフォリオを利用し、学修状況の確認、学修計画の立案や振り返りの機会を提供する。
4. 履修上特別な配慮を要する学生に対し、適切な支援を行う。

##### (3) 学修成果の評価方法

1. シラバスに到達目標や評価方法を明示し、評価の透明性を確保すると共に、小テストや試験、レポート、口頭試問など多様な評価方法を用いて妥当性・信頼性のある成績評価を行う。
2. 学修ポートフォリオにて成績評価やGPA、DP達成状況を示すことで、学生が学修成果を確認でき、その後の履修や自らの進路に資する情報を提供する。
3. 卒業研究等を課すことで、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を行う。

#### 【教育学部カリキュラム・ポリシー】

教育学部のディプロマ・ポリシーに示された資質・能力を養成し、「地域とともに学びの未来を拓く教師」を輩出するために、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と、教員免許を取得でき、かつ教育に関わる学術的・実践的な学びを体系的・系統的になしえる教育課程を設置する。教育学部の専門の教育課程は、コース共通科目、教職科目、専攻専門科目、実習関連科目、卒業業績からなる。また学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図（カリキュラム・ツリー）や履修モデル等として明示する。学生調査や各種データの分析結果を踏まえ、教育課程の点検・改善についても継続的に行う。

##### (1) 教育課程編成の視点と内容

(全学1~4を適用)

1. 共通教育の学びを通して、社会科学系・人文科学系及び自然科学系を含めた幅広い教養や語学を基に、社会人として必要な資質・能力を育成する。(DP1に対応)
2. 子どもの発達や学校教育において教育活動を行うための基盤となる専門的知識や技能を育成するために、教職共通科目や教科共通科目、専攻専門科目等を設置する。(DP2に対応)
3. 子どもたちに関わる専門職として社会や学校教育に関わる様々な課題を解決する資質・能力や生涯にわたって学び続ける基盤を育成するために、教育についての諸問題に対する関心を喚起するコース共通科目や各専攻専門に演習科目等を設置する。(DP3に対応)
4. 基本的人権を擁護し、他者と協働しながら社会活動や教育活動を行うための資質・能力を育成するために、教育実地研究や教職実践演習等を設置する。(DP4に対応)
5. 地域の特性や課題を理解すると同時に、国際理解・異文化理解の能力を育成するための科目をコース共通科目等に設置する。(DP5に対応)
6. 教育学部ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力を総合的に発揮する科目として卒業業績を課

す。  
7. 学生の興味・関心や進路希望に沿った自律的な学習を集中的に行うためのアクション・タームの設置や、学校教育や地域の現状を学ぶための教育ボランティアの機会の提供等、授業時間外での学修を促進する。(DP 3、DP 5 に対応)

(2) 教育課程展開の授業形態・方法  
(全学 1~4 を適用)

1. 実践的指導力の基礎を育成するために、学校園での参観・体験や教育実習、その振り返りの機会を設定する。

(3) 学修成果の評価方法  
(全学 1~3 を適用)

1. 教育学部のディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を卒業業績で行い、「地域とともに学びの未来を拓く教師」として求められる資質・能力が身についているかを確認する。  
2. 学修ポートフォリオに加え、4年間の教職関連科目の学修過程の記録や自己評価、振り返りを促すために「学びの軌跡(教職カルテ)」を活用する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 : [https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/))

(概要)

【和歌山大学アドミッション・ポリシー】

求める学生像

高等学校あるいはこれに相当する教育機関等における学習や活動を通して、次の知識・技能、能力、態度を有する人を求める。

1. 知識・技能

・ 本学での学修に必要な知識・技能を有する人

2. 思考力・判断力・表現力

・ 課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・ 多様で広い知的関心をもち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人

・ 身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

入学後の期待

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、各学部・学環の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルにまで資質・能力を高めることを期待する。

入学者選抜の基本方針

本学が求める資質・能力を適切に評価するために、各学部・学環の特性を踏まえた選抜方法により実施する。

【教育学部アドミッション・ポリシー】

求める学生像

教育学部では、卒業後に学校教員への就職を志望する、次の各要素を備えた人物を求める。

1. 知識・技能

・ これまでの学びを通して大学入学後の専門的知識を学ぶための基礎となる知識・技能を有する人

2. 思考力・判断力・表現力

・ 課題解決に主体的に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・ 多様で広い知的関心をもち、他者と関わって学ぼうとする意欲や態度を有する人

・ 身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

入学後の期待

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、生涯にわたって「地域とともに学びの未来を拓く教師」として必要な基盤を獲得することを期待する。

入学者選抜の基本方針

1. 一般選抜(前期日程)では、知識・技能については大学入学共通テスト及び個別学力検査等により、また、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接に

<p>より評価し、入学者を選抜する。</p> <p>2. 一般選抜（後期日程）では、知識・技能については大学入学共通テストにより、また、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>3. 学校推薦型選抜では、学校教育に興味を持ち、教職を目指す者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、知識・技能については大学入学共通テストにより、また、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接並びに出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。</p> <p>4. 学校推薦型選抜（きのくに教員希望枠）では、学校教育に興味を持ち、教職を目指す者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、知識・技能については小論文により、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接並びに出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。</p> <p>5. 学校推薦型選抜（地域【紀南】推薦枠）では、学校教育に興味を持ち、教職を目指す者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、知識・技能については小論文により、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接並びに出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。</p>
---

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p><b>【和歌山大学目的及び使命】</b> 国立大学法人和歌山大学が設置する和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを使命とする。</p> <p><b>【経済学部目的及び使命】</b> 学部は、広い視野と専門領域に応じた基礎学力及び経済社会を体系的に理解できる能力をもち、経済社会のさまざまな問題を真摯に受け止め、的確に判断し創造的・実践的に対応できる人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p><b>【和歌山大学ディプロマ・ポリシー】</b> 和歌山大学卒業時に身につけているべき能力を、5つの要素で構成したディプロマ・ポリシーにより、次のように定める。5つの要素の比重や具体は各学部・学環で異なるが、卒業する全ての学生がこの5つの要素に関わる能力を身につけている必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と分野横断的な学力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教養教育により、普遍的な思考力と、時代や社会が求める実践的な力を身につけている。</li> <li>・専門分野の枠を超えて求められる知識や思考法などの知的な技法の基礎を身につけている。</li> </ul> </li> <li>専門的知識や技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野における十分な見識を身につけることにより、専門職業人としての知識・技能を備えている。</li> </ul> </li> <li>課題解決力と自己学修能力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・修得した知識・技能を活用して課題を解決し、主体的に学び続ける能力、意欲と態度を備えている。</li> </ul> </li> <li>協働性とコミュニケーション能力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働して物事に取り組み理解する能力、意欲と態度を備えている。</li> </ul> </li> <li>地域への関心と国際的視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性を理解し、地域の課題解決に寄与する意欲や態度を備えている。</li> <li>・異文化理解力、コミュニケーション力を身につけ、国際的視野を備えている。</li> </ul> </li> </ol>

**【経済学部ディプロマ・ポリシー】**

和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、経済学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、次の目標に到達していると認められる者に学士(経済学)の学位を授与する。

1. 幅広い教養と分野横断的な学力
  - ・幅広い教養を基盤として、人間、社会、自然を捉える能力を身につけている。
  - ・論理的思考力と情報リテラシー及び初歩的な数的処理能力を身につけている。
2. 専門的知識や技能
  - ・経済学における基礎学力、及び経済学を中心とする社会科学の専門知識に基づいて、経済社会を理解する能力を身につけている。
  - ・課題解決指向の分野横断的な専門能力を身につけている。
3. 課題解決力と自己学修能力
  - ・獲得した知識、技能、能力に加え、創造力、思考力、実践力を活用し、経済活動に関する課題を解決する能力を身につけている。
  - ・社会の変化に対応する人材として、主体的に学び続ける姿勢を身につけている。
4. 協働性とコミュニケーション能力
  - ・社会の様々な主体と対話し、協調して行動する能力を身につけている。
5. 地域への関心と国際的視点
  - ・地域の姿を様々な側面から捉える能力を身につけている。
  - ・諸外国の状況を把握するための語学力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 : [https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/))

(概要)

**【和歌山大学カリキュラム・ポリシー】**

(1) 教育課程編成の視点と内容

1. 本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を育成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と各学部の専門分野を体系的に学ぶ教育課程を設置する。
2. 学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。
3. 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進すると共に、それらに充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限(キャップ制)を設ける。
4. 授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析にもとづき、個々の授業科目の教育効果や、学生の学修到達目標の達成状況について検証し、教育課程の改善につなげる。

(2) 教育課程展開の授業形態・方法

1. PBL やグループワークなどアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行うことで、社会人や職業人として必要なコミュニケーション力や協働する力、課題解決力などを身に付ける機会を設定する。
2. 様々な授業形態(講義、演習、実験、実習、実技など)を利用しながら、対面や遠隔、オンデマンドを適切に組み合わせた授業を行うと共に、学習管理システム(LMS)の利用を促進することで学習効果を高める。
3. 学生の履修を支援し、自己学修能力を育成するために学修ポートフォリオを利用し、学修状況の確認、学修計画の立案や振り返りの機会を提供する。
4. 履修上特別な配慮を要する学生に対し、適切な支援を行う。

(3) 学修成果の評価方法

1. シラバスに到達目標や評価方法を明示し、評価の透明性を確保すると共に、小テストや試験、レポート、口頭試問など多様な評価方法を用いて妥当性・信頼性のある成績評価を行う。
2. 学修ポートフォリオにて成績評価やGPA、DP達成状況を示すことで、学生が学修成果を確認でき、その後の履修や自らの進路に資する情報を提供する。
3. 卒業研究等を課すことで、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を行う。

**【経済学部カリキュラム・ポリシー】**

学士(経済学)にかかる学修成果を身につける教育課程を次の方針に基づき編成し実施する。経済学部のディプロマ・ポリシーに示された資質・能力を養成し、「複数領域の専門知識を組み合わせることで現代社会の複雑な課題に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を備えた人材」を輩出するために、幅広い

教養や専門教育の基盤となる共通教育と、経済学、経営学、会計学、情報学、法学等の複数の専門領域に関わる学術的・実践的な学びを体系的・系統的になしえる専門教育からなる教育課程を設置する。経済学部専門の教育課程は、導入科目、初年次演習科目、経済学、統計学の基礎を学ぶ初年次科目、プログラム科目、卒業研究を含む専門演習科目からなる。

また学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図(カリキュラム・ツリー)や履修モデル等として明示する。学生調査や各種データの分析結果を踏まえ、教育課程の点検・改善についても継続的に行う。

#### (1) 教育課程編成の視点と内容

(全学1~4を適用)

##### 1. 教養と分野横断的学力

共通教育の学びを通して、社会科学系・人文科学系及び自然科学系を含めた幅広い教養や語学を基に、社会人として必要な資質・能力を身に付けさせる。(DP1に対応)

##### 2. 専門知識と技能及び課題解決力と自己教育力

専門知識と技能及び課題解決力と自己教育力を養成するため、次の授業科目を配置する。

- ・進路や学修目標を主体的に定め計画できるようになるための導入科目 (DP3に対応)
- ・専門知識を学ぶ上で必要となる対話力、表現力、論理的思考力を身につけるための初年次演習科目 (DP3に対応)

・経済学、統計学の基礎を学ぶ初年次科目 (DP2に対応)

・経済学を中心とする社会科学の専門知識を学ぶプログラム科目 (DP2に対応)

・創造力、思考力、実践力を身につける少人数の専門演習科目 (DP3に対応)

このうち、次のプログラム科目を必修科目とする。

・基礎学力を身につけるための授業科目 (DP2に対応)

・社会科学の最小限の専門知識を身につけるための授業科目 (DP2に対応)

・プログラムの骨格となる授業科目 (DP2に対応)

・課題解決に必要な種々の能力を身につける少人数の授業科目 (DP3に対応)

また、学修目標に従い履修することが望ましい授業科目を選択必修科目もしくは選択科目とする。

(DP2、DP3に対応)

##### 3. 協働する力

学生が主体的・協働的に学修できるように、PBLやグループワークなどアクティブラーニングの視点を取り入れながら、科目内容に応じて、講義、演習、実験、実習、実技などを適切に組み合わせて授業を行う。(DP4に対応)

##### 4. 地域の理解と国際的視野

地域社会を学びの場とする地域科目を配置する。

国際的視野の獲得に寄与する外国語運用力を身につけるためのプログラム科目を配置する。(DP5に対応)

##### 5. 社会を見据えたキャリア教育

社会が求める人材像や自らが目指す人材像について考えるキャリア・デザイン科目を配置する。(DP3に対応)

6. 経済学部ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力を総合的に発揮する科目として卒業研究を課す。

#### (2) 教育課程展開の授業形態・方法

(全学1~4を適用)

1. 少人数クラスの担当教員を中心として学修の経過を確認する。

#### (3) 学修成果の評価方法

(全学1~3を適用)

1. 経済学部のディプロマ・ポリシーに示された資質・能力について、卒業研究を通じて総合的に評価する。複数領域の専門知識を組み合わせる現代社会の複雑な課題に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を備えた人材として必要な資質・能力が身につけているかを確認する。

2. 学修ポートフォリオに加え、リテラシーならびにコンピテンシーを確認できるアセスメントツールを適宜活用し、学びへの継続的な取り組みや学修成果の評価を行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：[https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-)

information/)

(概要)

【和歌山大学アドミッション・ポリシー】

求める学生像

高等学校あるいはこれに相当する教育機関等における学習や活動を通して、次の知識・技能、能力、態度を有する人を求める。

1. 知識・技能

・ 本学での学修に必要となる知識・技能を有する人

2. 思考力・判断力・表現力

・ 課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・ 多様で広い知的関心をもち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人

・ 身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

入学後の期待

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、各学部・学環の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルにまで資質・能力を高めることを期待する。

入学者選抜の基本方針

本学が求める資質・能力を適切に評価するために、各学部・学環の特性を踏まえた選抜方法により実施する。

【経済学部アドミッション・ポリシー】

求める学生像

これまでの学びの機会を通して、次の知識・技能、能力、態度を身につけようとしてきた人を求める。

1. 知識・技能

・ 社会の複合的な課題を発見・理解するための幅広い基礎的知識を有する人

2. 思考力・判断力・表現力

・ 認識した課題を分析・解決するための思考力・判断力・表現力を有する人

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・ 解に至る道筋を粘り強く考え続ける能力を有する人

・ 課題解決の実践にあたり、多様な人々と対話し、協働するためのコミュニケーション能力と意欲を有する人

入学後の期待

入学後には、自らがさらに努力を重ね、多くの人と関わり合いながら、経済・社会の活動に関わる諸問題に一層の関心を持ち、これまでに身につけた能力を磨くとともに、複数の専門領域を包摂した教育課程を通して、次の知識・技能、能力を身につけることを期待する。

1. 経済学、経営学、会計学、情報学、法学などを中心とした専門知識

2. 専門知識を領域横断的に活用した理解力、思考力、表現力

3. 主体的に学び、考え、多様な人々と協働する能力

入学者選抜の基本方針

1. 一般選抜（前期日程）では、大学入学共通テストと個別学力検査等により入学者を選抜する。大学入学共通テストにおいては、高等学校教育の成果として身につけた各教科の知識・技能や思考力・判断力・表現力等を評価する。個別学力検査等においては、経済学部で学修するのに必要な知識・技能や思考力・判断力・表現力等を英語と数学の側面から評価する。

2. 一般選抜（後期日程）では、大学入学共通テストと個別学力検査等により入学者を選抜する。大学入学共通テストにおいては、外国語の理解力と特定分野の知識を、優れた成績を取めた科目に配慮し評価する。個別学力検査等においては小論文を課し、論理的に考え、判断し、論述する力を評価する。特に、社会科学を学ぶ上で必要な知識、並びにそれを活用する能力を重視する。

3. 学校推薦型選抜では、高等学校等において身につける学力のうち、基本的な知識の修得状況と学ぶ意欲、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）、他者との議論や協働的な活動の礎となるコミュニケーション能力を、それぞれ出願書類、小論文、及び集団討論により評価し、入学者を選抜する。

4. 学校推薦型選抜（スポーツ）では、高等学校等において身につける学力のうち、社会科学を学ぶ上

<p>で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を小論文により評価する。これに加えて、基本的な知識の修得状況、顕著な成績を収めたスポーツ活動において培われた主体性や多様な人々と協働する力、及びスポーツの実践、普及、振興についての関心を出願書類と面接により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>5. 学校推薦型選抜（簿記）では、高等学校等において身につける学力のうち、社会科学を学ぶ上で必要な理解力（読解力）・論理的な思考力・表現力（文章力）を小論文により評価する。これに加えて、基本的な知識の修得状況、及び経済・経営・商業活動に関する知識・技能・思考力を出願書類と面接により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>6. 社会人選抜では、高等学校等の卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける姿勢などを出願書類及び面接により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>7. 帰国生徒選抜では、諸外国での学びと日本における学びのためになされた種々の活動を面接と出願書類により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>8. 私費外国人留学生選抜では、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたってなされた学びの成果を日本留学試験と出願書類により評価する。あわせて日本語の運用能力を面接により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>9. 第3年次一般編入学選抜では、他大学等での学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力をそれぞれ小論文と出願書類により評価する。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>10. 第3年次推薦編入学選抜では、他大学等での学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力を出願書類により評価する。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜する。</p>
--

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 システム工学部</p>
<p>教育研究上の目的 （公表方法：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>）</p>
<p>（概要） 【和歌山大学目的及び使命】 国立大学法人和歌山大学が設置する和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを使命とする。</p> <p>【システム工学部目的及び使命】 システム工学部は、その理念「複数の領域の知識を身につけ、その知識を自ら活用することで、創造性を発揮し、様々な人とのコミュニケーションを通して、課題の探求と問題解決を行い、自然や人間社会に貢献できる専門的技術者・研究者を養成する」に即して、分野を横断する複数領域の知識を身につけ、その知識を自ら活用することにより、広い視野から時代の要請に応え、課題解決のできる研究者や技術者を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>）</p>
<p>（概要） 【和歌山大学ディプロマ・ポリシー】 和歌山大学卒業時に身につけているべき能力を、5つの要素で構成したディプロマ・ポリシーにより、次のように定める。5つの要素の比重や具体は各学部・学環で異なるが、卒業する全ての学生がこの5つの要素に関わる能力を身につけている必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と分野横断的な学力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教養教育により、普遍的な思考力と、時代や社会が求める実践的な力を身につけている。</li> <li>・専門分野の枠を超えて求められる知識や思考法などの知的な技法の基礎を身につけている。</li> </ul> </li> <li>専門的知識や技能</li> </ol>

- ・専門分野における十分な見識を身につけることにより、専門職業人としての知識・技能を備えている。
- 3. 課題解決力と自己学修能力
  - ・修得した知識・技能を活用して課題を解決し、主体的に学び続ける能力、意欲と態度を備えている。
- 4. 協働性とコミュニケーション能力
  - ・他者と協働して物事に取り組み理解する能力、意欲と態度を備えている。
- 5. 地域への関心と国際的視点
  - ・地域の特性を理解し、地域の課題解決に寄与する意欲や態度を備えている。
  - ・異文化理解力、コミュニケーション力を身につけ、国際的視野を備えている。

【システム工学部ディプロマ・ポリシー】

和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、システム工学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、次の目標に到達していると認められる者に学士(工学)の学位を授与する。

1. 幅広い教養と分野横断的な学力
  - ・自然環境、社会、人間、文化に対する幅広い知識を身につけている。
  - ・時代や社会が求める実践的な力を身につけている。
2. 専門的知識や技能
  - ・情報技術の基礎及び工学の専門分野において必要な知識・技能を身につけている。
  - ・工学における複数分野を横断し俯瞰する専門的な知識・技能を身につけている。
3. 課題解決力と自己学修能力
  - ・技術者に必要な情報技術及び専門的な知識・技能を活かして、課題を解決する能力を身につけている。
  - ・専門的思考力及び技術力を高めるため、主体的な学修により学び続ける姿勢を身につけている。
4. 協働性とコミュニケーション能力
  - ・技術者として、課題の解決に向けて他者と協働して取り組む能力を身につけている。
  - ・自らの思考過程・作業過程・成果及びそれらの妥当性を他者に論理的に伝えるコミュニケーション能力を身につけている。
5. 地域への関心と国際的視点
  - ・地域の課題に対して関心を持ち、その課題の解決に寄与する能力を身につけている。
  - ・広範な情報を収集し、正しく分析することができる語学力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 : [https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/))

(概要)

【和歌山大学カリキュラム・ポリシー】

(1) 教育課程編成の視点と内容

1. 本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を育成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と各学部の専門分野を体系的に学ぶ教育課程を設置する。
2. 学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。
3. 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進すると共に、それらに充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限(キャップ制)を設ける。
4. 授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析にもとづき、個々の授業科目の教育効果や、学生の学修到達目標の達成状況について検証し、教育課程の改善につなげる。

(2) 教育課程展開の授業形態・方法

1. PBLやグループワークなどアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行うことで、社会人や職業人として必要なコミュニケーション力や協働する力、課題解決力などを身につける機会を設定する。
2. 様々な授業形態(講義、演習、実験、実習、実技など)を利用しながら、対面や遠隔、オンデマンドを適切に組み合わせた授業を行うと共に、学習管理システム(LMS)の利用を促進することで学習効果を高める。
3. 学生の履修を支援し、自己学修能力を育成するために学修ポートフォリオを利用し、学修状況の確認、学修計画の立案や振り返りの機会を提供する。
4. 履修上特別な配慮を要する学生に対し、適切な支援を行う。

(3) 学修成果の評価方法

1. シラバスに到達目標や評価方法を明示し、評価の透明性を確保すると共に、小テストや試験、レポート、口頭試問など多様な評価方法を用いて妥当性・信頼性のある成績評価を行う。
2. 学修ポートフォリオにて成績評価やGPA、DP達成状況を示すことで、学生が学修成果を確認でき、その後の履修や自らの進路に資する情報を提供する。
3. 卒業研究等を課すことで、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を行う。

#### 【システム工学部カリキュラム・ポリシー】

システム工学部のディプロマ・ポリシーで示された資質・能力を育成し、「複数の領域の知識を身につけ、その知識を自ら活用することで、創造性を発揮し、様々な人とのコミュニケーションを通して、課題の探求と問題解決を行い、自然や人間社会に貢献できる専門的技術者・研究者」を輩出するために、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と、システム工学に関わる学術的・実践的な学びを体系的・系統的になしえる教育課程を設置する。システム工学部の専門の教育課程は、工学基礎科目、情報基礎科目、情報応用科目、メジャー科目、卒業研究からなる。また学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図(カリキュラム・ツリー)や履修モデル等として明示する。学生調査や各種データの分析結果を踏まえ、教育課程の点検・改善についても継続的に行う。

#### (1) 教育課程編成の視点と内容

(全学1~4を適用)

1. 共通教育の学びを通して、自然環境、社会、人間、文化に対する幅広い知識を修得させる。また、広範な視野を必要とするシステム工学の学修の準備として工学基礎科目を設定する。(DP1に対応)
2. 情報技術に関する基礎知識と技能を修得させるために情報基礎科目を設定する。また、専門知識・技能を修得させるため、『応用理工学』『環境デザイン学』『情報学』の3つの領域に、「ロボティクス」「電子物理工学」「化学」「環境科学」「建築・ランドスケープ」「情報システムデザイン」「ネットワークコンピューティング」「クロスリアリティ・情報デザイン」の8つの専門教育課程(メジャー)を設置し、それぞれに科目を設定する。主たる専門知識・技能を修得させるために第1メジャーを、分野を横断する専門知識・技能を修得させるために第2メジャーを選択させる。(DP2に対応)
3. 情報技術及び専門的な知識・技能を活かして課題を解決する能力を修得させるために情報応用科目を設定する。また、主体的な学修により学び続ける姿勢を身につけさせるために、各メジャーにおいてゼミナール科目を設定する。(DP3に対応)
4. 他者と協働して取り組む能力、コミュニケーション能力を修得させるために、各メジャーにおいて実験、演習、フィールドワーク等を設定する。(DP4に対応)
5. 共通教育の学びを通して、地域の特性や課題に対する理解を深めさせるとともに、語学力を修得させる。また、地域への関心や国際的視点に基づいて、広い視野から時代の要請に応え、課題解決するために必要な資質・能力の基盤を育成するために、ゼミナール科目を設定する。(DP5に対応)
6. システム工学部ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力を総合的に発揮する科目として卒業研究を課す。
7. 学生の興味・関心や進路希望に沿った自律的な学修の機会を提供するために、システム工学自主演習、システム工学プロジェクト演習、インターンシップ等を設定する。(DP3、DP5に対応)

#### (2) 教育課程展開の授業形態・方法

(全学1~4を適用)

#### (3) 学修成果の評価方法

(全学1~3を適用)

システム工学部のディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を卒業研究で行い、「複数の領域の知識を身につけ、その知識を自ら活用することで、創造性を発揮し、様々な人とのコミュニケーションを通して、課題の探求と問題解決を行い、自然や人間社会に貢献できる専門的技術者・研究者」として求められる資質・能力が身につけているかを確認する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 : [https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/))

(概要)

【和歌山大学アドミッション・ポリシー】

求める学生像

高等学校あるいはこれに相当する教育機関等における学習や活動を通して、次の知識・技能、能力、態度を有する人を求める。

1. 知識・技能

・本学での学修に必要となる知識・技能を有する人

2. 思考力・判断力・表現力

・課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・多様で広い知的関心をもち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人

・身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

入学後の期待

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、各学部・学環の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルにまで資質・能力を高めることを期待する。

入学者選抜の基本方針

本学が求める資質・能力を適切に評価するために、各学部・学環の特性を踏まえた選抜方法により実施する。

【システム工学部アドミッション・ポリシー】

求める学生像

システム工学部において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。

1. 知識・技能

・これまでの学びを通して大学入学後の複数の科学・技術領域を見通し、情報教育を基盤として複合的に工学系分野の専門を学ぶための基礎となる学力・技能、特に理数系における確かな知識を有する人

2. 思考力・判断力・表現力

・課題を解決するための思考力・判断力を有する人

・意見や考えを他者や社会に分かりやすく伝えるための表現力を有する人

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・他者を尊重し、その意見を受け入れる柔軟性、協調性を有する人

・何事にも好奇心・探求心を持ち、創造力を身につけようとする真摯な態度を有する人

入学後の期待

入学後には、自ら学び考える力をもち、次の観点から、学術・産業研究を含む広範な工学系分野で活躍する自律的な技術者を目指すことを求める。

1. 自分自身の思い描くキャリアパスを客観的に考え、それに応じた2つのメジャーを選択すること

2. 情報技術に関する基礎知識・技能と、メジャーが提供する専門知識・技能を主体的に修得し、時代や社会が求める実践的な力を身につけること

3. 異なる知識や技能を、断片的にではなく体系化して身につけ、課題を解決する能力へと高めること

4. 課題解決に向けて、他者と協働して取り組む能力や意見や考えを論理的に伝えるコミュニケーション能力を身につけること

5. 広範な視野で専門をより深化させ、産業や社会のニーズに即応できる実践力と創造性を養うこと

入学者選抜の基本方針

1. 一般選抜（前期日程）では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、数学的思考力と英語の理解力を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜する。

2. 一般選抜（後期日程）では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜する。

3. 学校推薦型選抜では、明確な目的意識をもって入学を希望し、かつ、出身学校長より推薦を受けた者のうち、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、目的意識や学修意欲などを面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。

4. 学校推薦型選抜（女子枠）では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を有し、「自ら取り組む意欲」が高く、明確な目的意識をもって入学を希望し、かつ、出身学校長より推薦を受けた者のう

<p>ち、「探求的な学習」等の取組みにおいて優れた研究を行い、また、発想力が豊かで行動力があると認められる者を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。</p> <p>5. 私費外国人留学生選抜では、日本に留学するためになされた学びの成果を日本留学試験、出願書類、面接により評価する。あわせて、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、日本語運用能力を面接により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>6. 第3年次推薦編入学選抜では、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する基礎学力や専門に対する適性を面接と出願書類により評価する。あわせて、目的意識や学修意欲などを面接により評価し、入学者を選抜する。</p> <p>7. 第3年次一般編入学選抜では、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する専門知識などを学力検査により評価する。あわせて、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する専門知識・技能や目的意識、学修意欲などを面接により評価し、入学者を選抜する。</p>
---

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 観光学部</p>
<p>教育研究上の目的        (公表方法 : <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【和歌山大学目的及び使命】</b>        国立大学法人和歌山大学が設置する和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを使命とする。</p> <p><b>【観光学部目的及び使命】</b>        「観光経営」・「地域再生」・「観光文化」という3つの基本領域の相互関係として観光学の学問体系の全体像を認識しつつ、このうちのいずれかの領域に主たる専門性(より深い教養)を発揮できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針        (公表方法 : <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>)</p>
<p>(概要)</p> <p><b>【和歌山大学ディプロマ・ポリシー】</b>        和歌山大学卒業時に身につけているべき能力を、5つの要素で構成したディプロマ・ポリシーにより、次のように定める。5つの要素の比重や具体は各学部・学環で異なるが、卒業する全ての学生がこの5つの要素に関わる能力を身につけている必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と分野横断的な学力           <ul style="list-style-type: none"> <li>・教養教育により、普遍的な思考力と、時代や社会が求める実践的な力を身につけている。</li> <li>・専門分野の枠を超えて求められる知識や思考法などの知的な技法の基礎を身につけている。</li> </ul> </li> <li>専門的知識や技能           <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野における十分な見識を身につけることにより、専門職業人としての知識・技能を備えている。</li> </ul> </li> <li>課題解決力と自己学修能力           <ul style="list-style-type: none"> <li>・修得した知識・技能を活用して課題を解決し、主体的に学び続ける能力、意欲と態度を備えている。</li> </ul> </li> <li>協働性とコミュニケーション能力           <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者と協働して物事に取り組み理解する能力、意欲と態度を備えている。</li> </ul> </li> <li>地域への関心と国際的視点           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性を理解し、地域の課題解決に寄与する意欲や態度を備えている。</li> <li>・異文化理解力、コミュニケーション力を身につけ、国際的視野を備えている。</li> </ul> </li> </ol> <p><b>【観光学部ディプロマ・ポリシー】</b>        和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、観光学部が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、次の目標に到達していると認められる者に学士(観光学)の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>幅広い教養と分野横断的な学力</li> </ol>

- ・自然と人間社会の相互作用を理解する幅広い知識を身につけている。
  - ・修得した知識や経験に基づく情報を整理し、論理的に思考し、表現する力を身につけている。
2. 専門的知識や技能
    - ・観光を理解するうえで必要となる観光経営、地域再生、観光文化の専門知識を修得し、複数領域の知識を統合して思考する力を身につけている。
    - ・観光に関する情報を適切に収集し、専門知識に基づいて分析・考察する力を身につけている。
  3. 課題解決力と自己学修能力
    - ・観光を科学的かつ批判的、創造的に思考することを通じて、観光と地域社会や産業の課題を解決する力を身につけている。
    - ・課題解決に向けて、主体的に学修し、行動する力を身につけている。
  4. 協働性とコミュニケーション能力
    - ・他者と協力して共通の目標を達成する協働力を身につけている。
    - ・対話と実践を通じて、異なる文化や価値観をもつ他者を理解し、関係を築く力を身につけている。
  5. 地域への関心と国際的視点
    - ・地域と世界のつながりを理解し、地球市民としての当事者意識をもって観光の実践に取り組む力を身につけている。
    - ・世界観光倫理憲章（GCET）を理解し、観光を実践するうえで必要な倫理観を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針  
 （公表方法：[https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/)）

**【和歌山大学カリキュラム・ポリシー】**

(1) 教育課程編成の視点と内容

1. 本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を育成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と各学部の専門分野を体系的に学ぶ教育課程を設置する。
2. 学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。
3. 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進すると共に、それらに充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限（キャップ制）を設ける。
4. 授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析にもとづき、個々の授業科目の教育効果や、学生の学修到達目標の達成状況について検証し、教育課程の改善につなげる。

(2) 教育課程展開の授業形態・方法

1. PBLやグループワークなどアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行うことで、社会人や職業人として必要なコミュニケーション力や協働する力、課題解決力などを身に付ける機会を設定する。
2. 様々な授業形態（講義、演習、実験、実習、実技など）を利用しながら、対面や遠隔、オンデマンドを適切に組み合わせた授業を行うと共に、学習管理システム（LMS）の利用を促進することで学習効果を高める。
3. 学生の履修を支援し、自己学修能力を育成するために学修ポートフォリオを利用し、学修状況の確認、学修計画の立案や振り返りの機会を提供する。
4. 履修上特別な配慮を要する学生に対し、適切な支援を行う。

(3) 学修成果の評価方法

1. シラバスに到達目標や評価方法を明示し、評価の透明性を確保すると共に、小テストや試験、レポート、口頭試問など多様な評価方法を用いて妥当性・信頼性のある成績評価を行う。
2. 学修ポートフォリオにて成績評価やGPA、DP達成状況を示すことで、学生が学修成果を確認でき、その後の履修や自らの進路に資する情報を提供する。
3. 卒業研究等を課すことで、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を行う。

**【観光学部カリキュラム・ポリシー】**

観光学部のディプロマ・ポリシーに示された資質・能力を養成することを通じ、環境・社会・経済の調和に基づく観光の実践を牽引する「希望ある未来を支える人材」を育成するため、幅広い教養と思考力等を修得する共通教育課程と、高度な観光学研究に基づく学際的で、国際的かつ実践的な学びを体系的に提供する専門教育課程を設置する。観光学部の専門教育課程は、専門基礎科目（導入科目、基盤科目、学修技能科目、実践科目）、専門展開科目（観光経営科目、地域再生科目、観光文化科目、実践展開科目）、専門研究科目（専門演習、卒業研究）で構成される。また学生の履修を支援するため、シラバスに加え、科目間の関連や学修の順序を示すカリキュラム・ツリーや履修モデルを明示する。

学生調査や各種データの分析結果を踏まえ、教育課程の点検・改善についても継続的に行う。

(1) 教育課程編成の視点と内容

(全学1～4を適用)

1. 自然科学から人文社会科学までの幅広い教養と論理的思考力、表現力を身につけ、豊かな人間性と批判的思考・科学的思考を涵養するため、共通教育科目を配置する (DP1 に対応)
2. 観光学の基礎的知識と観光者としての姿勢や感性を身につけるため、導入科目と学修技能科目を配置する。また、観光の健全な発展に貢献する諸活動を行ううえで必要となる専門知識を修得するため、基盤科目と観光経営科目、地域再生科目、観光文化科目を配置する。(DP2 に対応)
3. 観光に関する学術的、社会・経済的諸課題に対し、科学的かつ創造的、主体的に取り組む力を涵養するため、プロジェクトベースの実践科目と実践展開科目、専門研究科目を配置する。(DP3 に対応)
4. 他者への理解力と共感力を携え、他者と協働して目標を達成する力を身につけるため、フィールドワークやグループワーク、PBL など、他者との対話と学修および実践を組みこんだ実習や演習を配置する。(DP4 に対応)
5. 地域と世界のつながりを理解し、倫理観をもって観光の探究と実践に取り組む資質と能力を涵養するため、導入科目と基盤科目、専門展開科目に観光倫理憲章を踏まえた授業科目を配置する。(DP5 に対応)
6. 観光の諸問題をグローバルな視点と規模で学び、その成果を国際社会に発信する力を身につけるため Global Program を編成し、英語で学ぶ授業科目を配置する。(DP2 に対応)
7. 観光学部のディプロマ・ポリシーで示された資質・能力を総合的に評価する科目として、卒業研究を配置する。

(2) 教育課程展開の授業形態・方法

(全学1～4を適用)

(3) 学修成果の評価方法

(全学1～3を適用)

観光学部のディプロマ・ポリシーに示された資質・能力について、卒業研究を通じて総合的に評価し、環境・社会・経済の調和に基づく観光の実践を牽引する「希望ある未来を支える人材」として求められる資質・能力が身についているかを確認する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法 : [https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/))

(概要)

【和歌山大学アドミッション・ポリシー】

求める学生像

高等学校あるいはこれに相当する教育機関等における学習や活動を通して、次の知識・技能、能力、態度を有する人を求める。

1. 知識・技能

・ 本学での学修に必要な知識・技能を有する人

2. 思考力・判断力・表現力

・ 課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・ 多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人

・ 身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

入学後の期待

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、各学部・学環の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルにまで資質・能力を高めることを期待する。

入学者選抜の基本方針

本学が求める資質・能力を適切に評価するために、各学部・学環の特性を踏まえた選抜方法により実施する。

【観光学部アドミッション・ポリシー】

<p>求める学生像</p> <p>観光学部において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光学部における専門分野の学修に必要な基礎学力を有する人</li> </ul> </li> <li>2. 思考力・判断力・表現力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的かつ積極的に課題に挑戦するための基礎的な思考力・判断力・表現力を有する人</li> </ul> </li> <li>3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいものごとへの好奇心・探究心、多様な文化・歴史・地理・言語や現代の社会情勢に対する幅広い関心を持ち、他者と関わって学ぼうとする意欲や態度を有する人</li> <li>・身につけた知識や技能を活用し、主体的かつ創造的に課題解決に取り組む意欲や態度を有する人</li> </ul> </li> </ol> <p>入学後の期待</p> <p>入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、観光に関わる諸問題に一層の関心を持ち、観光学部の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルまで資質・能力を高めることを求める。</p> <p>入学者選抜の基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般選抜（前期日程）では、入学後の専門知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入学共通テストにより、また、思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を個別学力検査等により総合的に評価し、入学者を選抜する。</li> <li>2. 一般選抜（後期日程）では、観光学を学ぶ上で必要となる幅広い知識・学力（汎用的能力）を大学入学共通テストにより評価し、入学者を選抜する。</li> <li>3. 総合型選抜では、入学後の学修に必要な思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を書類審査、指定された課題のプレゼンテーション、出願書類等に基づいた面接により多面的に評価し、入学者を選抜する。</li> <li>4. 学校推薦型選抜では、入学後の専門知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入学共通テストにより、また、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を高等学校等で意欲的に取り組んだ活動実績、資格取得等により、さらに入学後の学修に必要な思考力・判断力・表現力を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。</li> <li>5. 社会人選抜では、入学後の学修に必要な理解力・論理的思考力・判断力・表現力を小論文により、また、高等学校等卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける意欲や態度を出願書類及び面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。</li> <li>6. 私費外国人留学生選抜では、入学後の学修に必要な理解力・論理的思考力・判断力・表現力に加え、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたっての学ぶ意欲や態度、日本語運用能力を日本留学試験、出願書類、面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。</li> </ol>
--

① 教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

<p>学部等名 社会インフォマティクス学環</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>（公表方法：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a>）</p>
<p>（概要）</p> <p>【和歌山大学目的及び使命】</p> <p>国立大学法人和歌山大学が設置する和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを使命とする。</p> <p>【社会インフォマティクス学環目的及び使命】</p> <p>学環は、広い視野と専門領域に応じた基礎学力及び応用力を体系的に理解できる能力をもち、データを利活用して社会の課題解決や地域活性化に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>（公表方法：<a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/socinfo/curriculum/index.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/socinfo/curriculum/index.html</a>）</p>

(概要)

【和歌山大学ディプロマ・ポリシー】

和歌山大学卒業時に身につけているべき能力を、5つの要素で構成したディプロマ・ポリシーにより、次のように定める。5つの要素の比重や具体は各学部・学環で異なるが、卒業する全ての学生がこの5つの要素に関わる能力を身につけている必要がある。

1. 幅広い教養と分野横断的な学力
  - ・教養教育により、普遍的な思考力と、時代や社会が求める実践的な力を身につけている。
  - ・専門分野の枠を超えて求められる知識や思考法などの知的な技法の基礎を身につけている。
2. 専門的知識や技能
  - ・専門分野における十分な見識を身につけることにより、専門職業人としての知識・技能を備えている。
3. 課題解決力と自己学修能力
  - ・修得した知識・技能を活用して課題を解決し、主体的に学び続ける能力、意欲と態度を備えている。
4. 協働性とコミュニケーション能力
  - ・他者と協働して物事に取り組み理解する能力、意欲と態度を備えている。
5. 地域への関心と国際的視点
  - ・地域の特性を理解し、地域の課題解決に寄与する意欲や態度を備えている。
  - ・異文化理解力、コミュニケーション力を身につけ、国際的視野を備えている。

【社会インフォマティクス学環ディプロマ・ポリシー】

和歌山大学の目的及び使命並びに学位授与の方針に則り、社会インフォマティクス学環が定めた教育目的に基づいて編成した教育課程を通して、次の目標に到達していると認められる者に学士(社会情報学)の学位を授与する。

1. 幅広い教養と分野横断的な学力
  - ・幅広い教養と科学的思考力を基盤として、自然、社会、人間、文化を的確に捉えて活動する能力と実社会における多様な活動に適応できる分野横断的な学力を身につけている。
2. 専門的知識や技能
  - ・社会における有用なデータや情報にかかる専門的な知識を身につけている。
3. 課題解決力と自己学修能力
  - ・社会の課題解決を指向した、データや情報の分析能力を身につけている。
4. 協働性とコミュニケーション能力
  - ・主体的にデータや情報を用いた社会の課題解決策を提起し、他者と協働しながらそれを実現していく力を身につけている。
5. 地域への関心と国際的視点
  - ・地域への関心と理解を有し、国際的な視点も兼ね備え、社会の課題を的確に把握する能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法 : [https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/))

(概要)

【和歌山大学カリキュラム・ポリシー】

(1) 教育課程編成の視点と内容

1. 本学では、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を育成するため、幅広い教養や専門教育の基盤となる共通教育と各学部の専門分野を体系的に学ぶ教育課程を設置する。
2. 学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図、ナンバリングや履修モデル等で明示する。
3. 主体的な学びの確立のために、すべての授業において、授業時間外学修を促進すると共に、それらに充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限(キャップ制)を設ける。
4. 授業アンケート、入学者アンケート、卒業予定者アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析にもとづき、個々の授業科目の教育効果や、学生の学修到達目標の達成状況について検証し、教育課程の改善につなげる。

(2) 教育課程展開の授業形態・方法

1. PBLやグループワークなどアクティブラーニングの視点を取り入れた授業を行うことで、社会人や職業人として必要なコミュニケーション力や協働する力、課題解決力などを身に付ける機会を設定する。
2. 様々な授業形態(講義、演習、実験、実習、実技など)を利用しながら、対面や遠隔、オンデマン

ドを適切に組み合わせた授業を行うと共に、学習管理システム（LMS）の利用を促進することで学習効果を高める。

3. 学生の履修を支援し、自己学修能力を育成するために学修ポートフォリオを利用し、学修状況の確認、学修計画の立案や振り返りの機会を提供する。

4. 履修上特別な配慮を要する学生に対し、適切な支援を行う。

(3) 学修成果の評価方法

1. シラバスに到達目標や評価方法を明示し、評価の透明性を確保すると共に、小テストや試験、レポート、口頭試問など多様な評価方法を用いて妥当性・信頼性のある成績評価を行う。

2. 学修ポートフォリオにて成績評価やGPA、DP達成状況を示すことで、学生が学修成果を確認でき、その後の履修や自らの進路に資する情報を提供する。

3. 卒業研究等を課すことで、ディプロマ・ポリシーで示された資質・能力の総合的な評価を行う。

【社会インフォマティクス学環カリキュラム・ポリシー】

社会インフォマティクス学環のディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を養成し、社会科学と工学の知識を基礎としたデータに基づく思考力を備えた人材を育成するべく、幅広い教養や専門教育の基盤となる「共通教育」、経済学・観光学・工学の境界を越えて専門知識を関連づける「基盤専門・応用領域専門」、社会の現場で実践的知識を修得する「専門演習」、特定の課題について自らの主張の妥当性を論証する「卒業研究」で構成する。また、学生の履修を支援するため、シラバスとともに、科目間の関連や学修の順序を履修系統図（カリキュラム・ツリー）等で明示する。学生調査や各種データの分析結果を踏まえ、教育課程の点検・改善についても継続的に行う。

(1) 教育課程編成の視点と内容

(全学1～4を適用)

1. 社会科学系・人文科学系及び自然科学系を含めた幅広い教養や語学を基に学ぶ共通教育科目、並びにデータ解析を基に社会実装の基盤となる知識・技能を学ぶ基盤専門科目を設置する。(DP1、DP2に対応)

2. データ利活用を基に経済学・観光学・工学の専門知識・技能を身につける応用領域専門科目を設置する。(DP2に対応)

3. 企業・自治体等と連携して、社会の実際の課題への取り組みを通し実践的知識を養う専門演習科目を設置する。(DP3、DP4に対応)

4. 学生が主体的・協働的に学修できるように、PBLやグループワークなどアクティブラーニングの視点を取り入れながら、科目内容に応じて、講義、実習などを適切に組み合わせて授業を行う。(DP3、DP4に対応)

5. 地域への関心と理解を深めるための授業や、広範な情報の収集・分析・活用に必要な外国語運用力を身につけるための授業を共通教育・専門演習科目等に設置する。(DP5に対応)

6. 社会インフォマティクス学環のディプロマ・ポリシーで示された資質・能力を総合的に発揮する科目として卒業研究を課す。

(2) 教育課程展開の授業形態・方法

(全学1～4を適用)

(3) 学修成果の評価方法

(全学1～3を適用)

社会インフォマティクス学環のディプロマ・ポリシーに示す資質・能力の総合的な評価を卒業研究で行い、「社会科学と工学の知識を基礎としたデータに基づく思考力を備えた人材」として求められる資質・能力が身についているかを確認する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：[https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/))

(概要)

【和歌山大学アドミッション・ポリシー】

求める学生像

高等学校あるいはこれに相当する教育機関等における学習や活動を通して、次の知識・技能、能力、態度を有する人を求める。

1. 知識・技能

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学での学修に必要となる知識・技能を有する人</li> </ul> <p>2. 思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人</li> </ul> <p>3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人</li> <li>・身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人</li> </ul> <p>入学後の期待</p> <p>入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、各学部・学環の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルにまで資質・能力を高めることを期待する。</p> <p>入学者選抜の基本方針</p> <p>本学が求める資質・能力を適切に評価するために、各学部・学環の特性を踏まえた選抜方法により実施する。</p> <p><b>【社会インフォマティクス学環アドミッション・ポリシー】</b></p> <p>求める学生像</p> <p>社会インフォマティクス学環において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本学での学修必要となる知識・技能を有する人</li> </ul> </li> <li>2. 思考力・判断力・表現力 <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人</li> </ul> </li> <li>3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人</li> <li>・身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人</li> </ul> </li> </ol> <p>入学後の期待</p> <p>入学後においては、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、複数の専門領域を包摂した教育課程を通して、テクノロジーに基づく柔軟性を持ち、かつ、社会的通用性を備えた人材として、次の知識・技能、能力を身につけることを期待する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスサイエンス力 <p>社会の現場で必要とされる、社会科学分野のファンダメンタルなモデルを、データエビデンスベースの工学的アプローチを用いて、幅広い知識やノウハウを活用することができる。</p> </li> <li>2. データ利活用力 <p>社会に存在するデータを利用し、何を活用できるのか、また、新たにどのような観点で情報収集すべきかを思考できる。さらには、データを分析し、それを検証して将来の予測に活かすことができる。</p> </li> <li>3. 企画力・実践力・発信力 <p>データ分析から導き出された成果を社会の様々な活動に適用し、社会の活性化や新たな付加価値創出につなげていくことができる。</p> </li> </ol> <p>入学者選抜の基本方針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般選抜（前期日程）では、高等学校等で学んだ各教科の基礎的な学習の達成の程度を大学入学共通テストにより、数的理解力、思考力・判断力・表現力については個別学力検査等において評価し、入学者を選抜する。</li> <li>2. 学校推薦型選抜では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、社会科学ならびにデータエビデンスのアプローチを学ぶ上で必要な思考力・判断力・表現力及び他者との議論や協働的な活動の礎となるコミュニケーション能力を面接により評価し、入学者を選抜する。</li> </ol>
---

## ② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：[https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	学長 1 人 副学長 4 人	—					5 人
教育学部	—	33 人	15 人	3 人	0 人	0 人	51 人
経済学部	—	19 人	14 人	0 人	0 人	0 人	33 人
システム工学部	—	30 人	18 人	11 人	8 人	0 人	67 人
観光学部	—	12 人	2 人	3 人	3 人	0 人	20 人
社会インフォマティクス学環	—	3 人	0 人	0 人	0 人	0 人	3 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		123 人					123 人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等) (企画課)		公表方法： <a href="https://researchers.center.wakayama-u.ac.jp">https://researchers.center.wakayama-u.ac.jp</a>					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）（学務課）							
<p>教学入試戦略推進本部において、教学に関する F D・S D を企画・実施しているほか、各学部の F D 委員会においても、各部局の状況に合わせ、独自に活動を行っている。主な活動は以下のとおりである。</p> <p><b>【全学】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学 F D 研修の実施（教学マネジメント指針を踏まえた、教育の質保証及び学修者本位の教育の実現に向けた教職員研修 計 4 件）</li> </ul> <p><b>【部局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価分布の分析の実施及び検証結果の情報共有</li> <li>・学生による授業評価を教員にフィードバック</li> <li>・新任教員の授業公開・参観</li> <li>・学部 F D 研修の実施 など</li> </ul>							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	135 人	141 人	104.4%	600 人	644 人	107.3%	0 人	0 人
経済学部	290 人	298 人	102.8%	1,180 人	1,281 人	108.6%	10 人	7 人
システム工学部	320 人	320 人	100.0%	1,260 人	1,350 人	107.1%	20 人	4 人
観光学部	115 人	117 人	101.7%	460 人	497 人	108.0%	0 人	0 人
社会インフォマティクス学環	30 人	36 人	120.0%	120 人	141 人	117.5%	0 人	0 人
合計	890 人	912 人	102.5%	3,620 人	3,913 人	108.1%	30 人	11 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	165人 (100%)	5人 (3%)	150人 (91%)	10人 (6%)
経済学部	317人 (100%)	11人 (4%)	289人 (91%)	17人 (5%)
システム工学部	292人 (100%)	172人 (59%)	115人 (39%)	5人 (2%)
観光学部	125人 (100%)	6人 (5%)	114人 (91%)	5人 (4%)
社会インフォマ ティクス学環	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	899人 (100%)	194人 (22%)	668人 (74%)	37人 (4%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) ○大学のホームページ:「キャリアセンター 就職・進路実績」にて公表 <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/career/record.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/career/record.html</a>				
(備考) 社会インフォマティクス学環は令和5年度設置のため卒業者はいない。				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	171人 (100.0%)	155人 ( 90.6%)	11人 ( 6.4%)	1人 ( 0.6%)	4人 ( 2.3%)
経済学部	315人 (100.0%)	266人 ( 84.4%)	29人 ( 9.2%)	2人 ( 0.6%)	18人 ( 5.7%)
システム工学部	305人 (100.0%)	238人 ( 78.0%)	44人 ( 14.4%)	11人 ( 3.6%)	12人 ( 3.9%)
観光学部	125人 (100.0%)	107人 ( 85.6%)	8人 ( 6.4%)	0人 ( 0.0%)	10人 ( 8.0%)
社会インフォマ ティクス学環	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	916人 (100.0%)	766人 ( 83.6%)	92人 ( 10.0%)	14人 ( 1.5%)	44人 ( 4.8%)
(備考) 「その他」は休学により所定の在学期間に達していない者。 社会インフォマティクス学環は令和5年度設置のため卒業者はいない。					

#### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<p>和歌山大学成績評価方針及びシラバス作成のガイドラインにおいて、授業の目的、到達目標、授業計画及び成績評価の方法・基準のシラバスへの明記など、教員による授業評価の基本方針を定めており、授業担当教員が作成したシラバスは、部局が内容を確認の上、大学のホームページで公表している。</p> <p>学生には、履修手引等により3月下旬または4月のガイダンス等にて指導している。</p> <p>○大学のホームページ：「シラバスについて」において公表  <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/syllabus.html</a></p>

#### ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>和歌山大学成績評価方針及びシラバス作成のガイドラインの基本方針において、授業時間外で行う事前・事後学習についてもシラバスに具体的に記載することとしており、個々の授業科目における成績評価は、シラバスに記載した到達目標の達成度に応じて、精密な評価を行うと定めて実施している。</p> <p>全学及び学部・学環においてディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを定めて大学のホームページで公表するとともに、これらに基づいて授業科目を適切に開設している。</p>				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育教員養成課程	132単位	○有・無	48～56単位
経済学部	経済学科	124単位	○有・無	48～60単位
システム工学部	システム工学科	124単位	○有・無	48～56単位

観光学部	観光学科	124 単位	○有・無	36～48 単位
社会情報メディア学専攻		128 単位	○有・無	52～60 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法： <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/GPA_CAP.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/basic/GPA_CAP.html</a>		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○キャンパス案内（バリアフリーマップ含む） <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/c-map.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/c-map.html</a></li> <li>○運動施設、課外活動施設、休息のとれる環境など <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/">https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/</a></li> <li>○課外活動の概要（課外活動一覧） <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/activity/extracurricular.html">https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/activity/extracurricular.html</a></li> </ul>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育学部	学校教育教員養成課程	535,800円	282,000円	円	
経済学部	経済学科	535,800円	282,000円	円	
システム工学部	システム工学科	535,800円	282,000円	円	
観光学部	観光学科	535,800円	282,000円	円	
社会情報メディア系		535,800円	282,000円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生や在学生対象の学年ごとのガイダンスにおける履修指導</li> <li>・GPAを活用した成績不振者等への修学履修相談の実施</li> <li>・キャンパスライフ・健康支援センターキャンパスライフ支援部門を窓口、関係部局が連携して特別に支援が必要な学生に対する修学支援を実施</li> <li>・オフィスアワーの設定やネットワークを利用した学習相談システム、総合相談窓口など、複数の方法により学生が相談しやすい環境を整備</li> <li>・チューターや指導教員による留学生への指導・助言、アドバイス 等</li> </ul>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>キャリアセンターにおいて、学内企業説明会・業界研究セミナー・就職ガイダンス・特別講座など、各種キャリア支援行事の運営、求人票紹介、就職相談、進路指導、エントリーシートへの添削、模擬面接などのキャリアカウンセリング（個人指導）、キャリア教育・インターンシップに関するサポートを実施している。</p> <p>○大学のホームページ：「和歌山大学キャリアセンター」より  <a href="https://www.wakayama-u.ac.jp/career/">https://www.wakayama-u.ac.jp/career/</a></p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では、キャンパスライフ・健康支援センターが中心となり、学生の心身の健康に関する総合的な支援体制を整備している。同センターにおいて、医師、保健師、看護師および臨床心理士等の専門家による相談体制を構築するとともに、全学的な連携体制として「総合相談窓口」を設置し、教職員による学生相談対応を行っている。</p> <p>健康支援部門では、看護師や保健師が体調不良や負傷への対応を担い、必要に応じて、内科医や精神科医による診察を実施している。また、卒業生・在学生による自助グループ「アミーゴの会」で、交流機会の提供やメンタルサポートを行い、不登校傾向や修学上の困難を抱える学生の修学継続や復学支援に取り組んでいる。キャンパスライフ支援部門では、学生相談と障害学生支援を担い、多様な学生の悩みに応じ、カウンセリングや合理的配慮の提供に取り組んでいる。また、Well-being ピア・サポーターによる居場所支援、学習支援、交流イベント等を通し、学生の相互支援や孤立防止にも取り組んでいる。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：[https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public\\_information\\_gallery/education-information/](https://www.wakayama-u.ac.jp/about/public_information_gallery/education-information/)

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F130110109356
学校名 (〇〇大学 等)	和歌山大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	国立大学法人和歌山大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		888人（560）人	874人（542）人	919人（581）人
内 訳	第Ⅰ区分	236人	227人	
	（うち多子世帯）	（50人）	（37人）	
	第Ⅱ区分	112人	101人	
	（うち多子世帯）	（20人）	（15人）	
	第Ⅲ区分	65人	69人	
	（うち多子世帯）	（15人）	（13人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	86人	98人	
区分外（多子世帯）		389人	379人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				928人（583）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	13人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が廃止の基準に該当)	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	23人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	—	人	人
GPA等が下位4分の1	106人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	21人	人	人
計	118人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。